

子どもにきいた「2024年のしあわせ点数は？」 博報堂教育財団こども研究所が「2024年の気分調査」の結果を発表

小中学生の今年のしあわせ点数は81.5点 2025年は「平和で戦争のない世界」になってほしい

公益財団法人博報堂教育財団の調査研究機関 こども研究所では、全国の小学4年生～中学3年生を対象に、子どもをとりまくさまざまなトピックスについて、子どもたち自身がどう感じ、考えているのかを明らかにすることを目的とした調査を実施しています。

今回は、こども研究所が隔週で行っている「いまの気分調査」の特別編。「いまの気分調査」では、小4～中3生300名を対象に「前週の心に残ったできごと」や「しあわせ点数とその理由」などをきいています。この特別編「2024年の気分調査」では、小4～中3生※1の対象者を600名に拡大して、2024年1年間の「心に残ったできごと」や「しあわせ点数」に加え、「2025年の目標や期待」を聴取しています。さらに、15～79歳※2 計700名にも同じ調査を実施し、小中学生の結果とあわせて2024年を振り返ります。

※1：本リリース内では「小中学生」としてしています。

※2：本リリース内では「高校生/大人」としてしています。15歳に中学生は含まれませんが、15～17歳には学生以外も含まれます。

調査結果のポイント

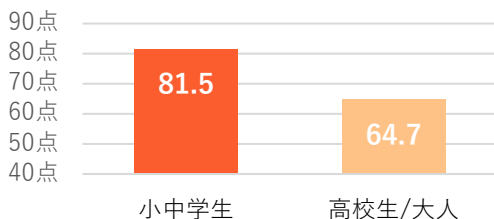
- 2024年のしあわせ点数の平均点は、小中学生が81.5点。高校生/大人は64.7点。
- 2024年の最も心に残ったできごとは、小中学生、高校生/大人ともに「旅行」。
- 2024年の最も心に残ったできごとを気分オノマトペでいうと、「わくわく」「やったー」。
- 2025年は2024年と比較して「変わらない」と考えている小中学生が6割以上。
- 2025年の世の中に対する小中学生の期待、願望は「平和で戦争のない世界」が最多。

1. 2024年のしあわせ点数の平均点は、小中学生が81.5点。高校生/大人は64.7点。

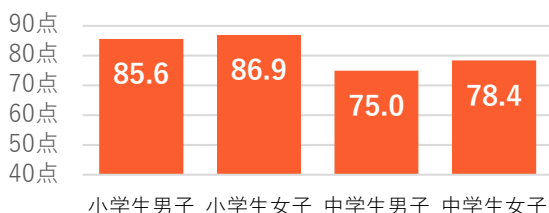
- ・ 2024年の1年間、自分のことをどれくらい「しあわせ」だと感じたかを0～100点満点できいたところ（しあわせ点数）、小中学生の平均点は81.5点。高校生/大人は64.7点。小中学生の平均点は、高校生/大人と比べて+16.8点でした。
- ・ 小中×男女別では、小学生が男女とも85点以上で、中学生は70点台後半でした。小中学生の平均点の80点超えを牽引しているのは、小学生ということがわかります。
- ・ 小中別・年代別では、小4～小6が最も平均点が高く、86.3点。最も低かったのは40代の53.7点で、グラフはすり鉢型になりました。

Q. 今年一年、あなたは自分のことをどれくらい「しあわせ」だと感じましたか。「すごくしあわせ」を100点、「まったくしあわせではない」を0点としたときに、100点まん点で教えてください。

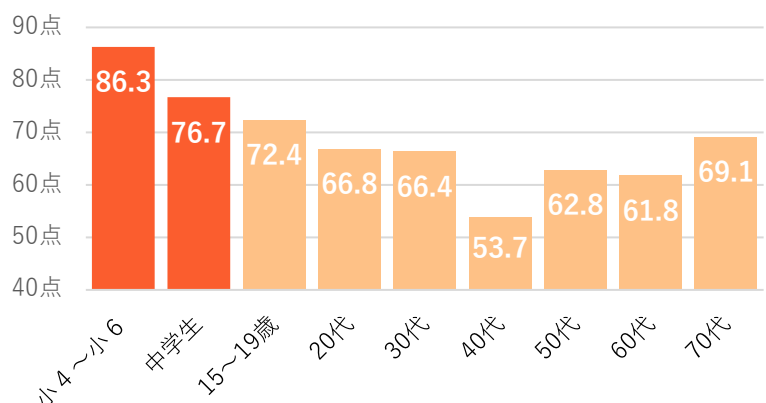
■全体



■小中×男女別



■小中別・年代別

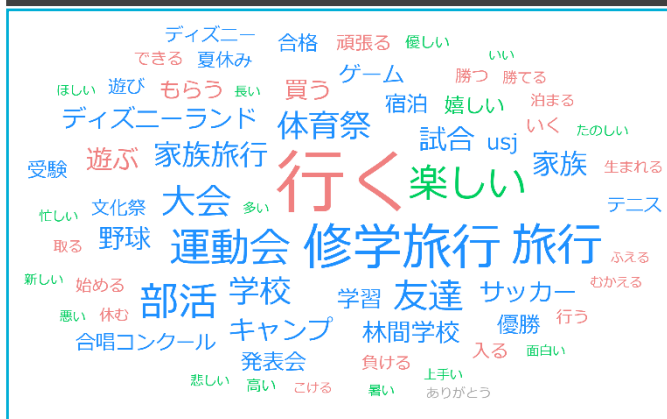


2. 2024年の最も心に残ったできごとは、小中学生、高校生/大人ともに「旅行」。

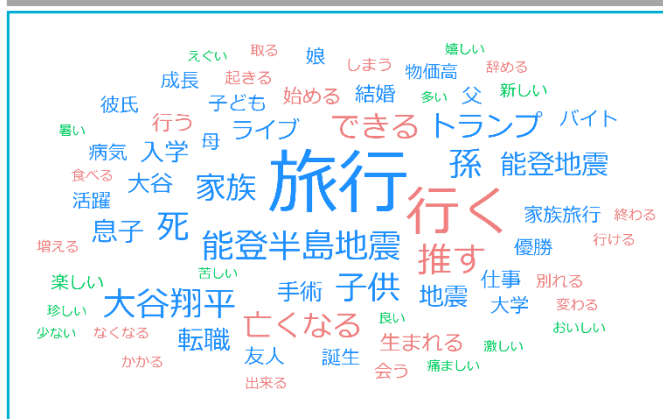
- ・ 2024年で心に残ったできごと（5つまで）を自由回答で書いて、その中で最も心に残ったできごとを1つ選んでもらいました。
- ・ 小中学生では「家族や親せきとの旅行」が最も多く、次いで「学校の修学旅行・課外授業」の主に宿泊をとまなう学校行事でした。コロナ禍が一段落して、修学旅行や宿泊学習が平常通り実施されるようになったことがうかがえます。
- ・ 小学生男子では「学校の修学旅行・課外授業」より「家族や親せきとの旅行」、小学生女子では逆に「家族や親せきとの旅行」より「学校の修学旅行・課外授業」の回答が多くありました。
- ・ 「テニスで県大会に出た」「陸上の大会で自己ベストを出した」など、部活での活躍や成果の回答は、特に中学生で多くみられました。
- ・ 高校生/大人でも「旅行」がトップ。次いで「家族や親せきの病気・不幸」。社会的なできごとでは、「能登半島地震・豪雨」などが挙がりました。

Q. (前の設問で回答した) この一年間の心に残ったできごとのうち、最も心に残っているできごとはどれですか。

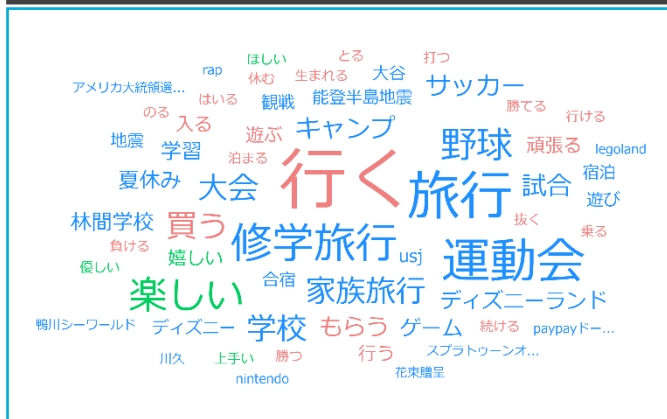
小中学生 (600人)



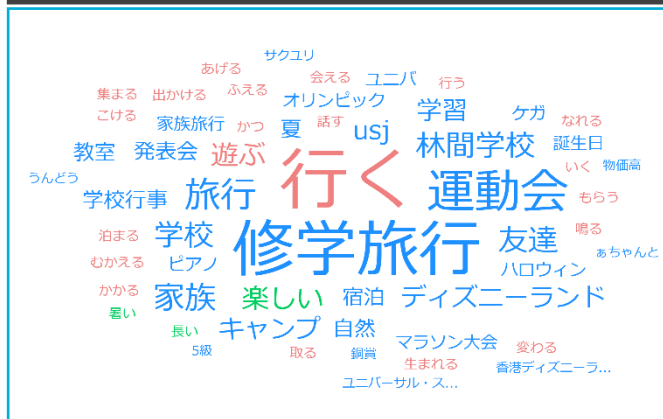
高校生/大人 (700人)



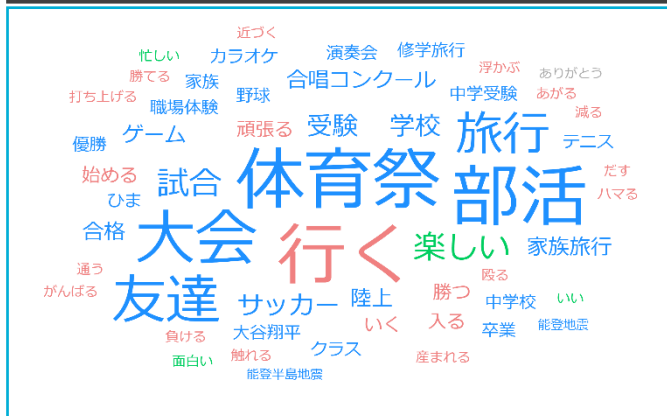
小学生男子 (150人)



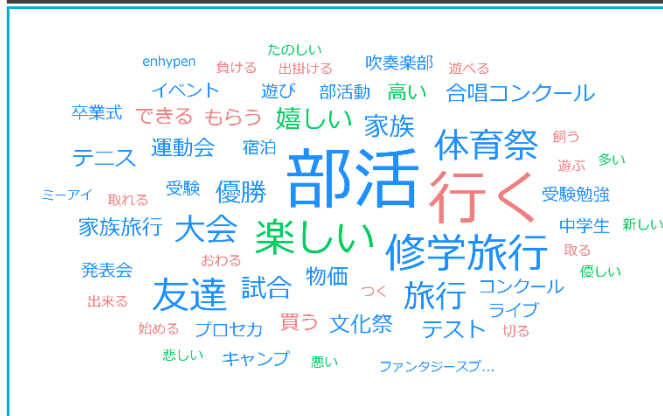
小学生女子 (150人)



中学生男子 (150人)



中学生女子 (150人)



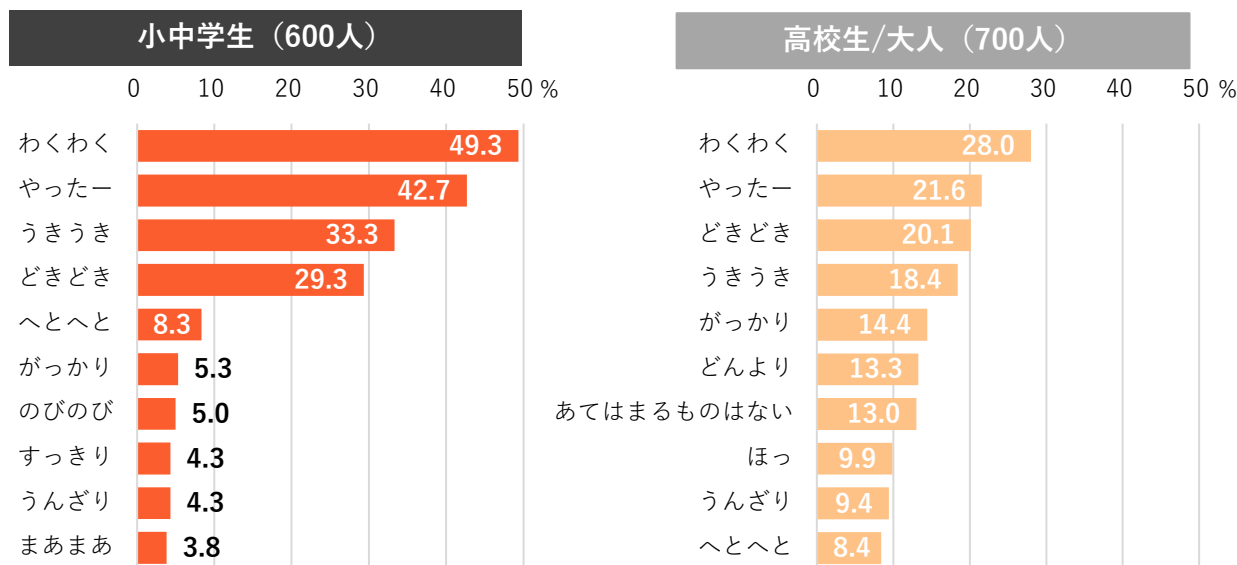
すべて頻出順

ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

3. 2024年の最も心に残ったできごとを気分オノマトペでいうと、「わくわく」「やったー」。

- 2024年で最も心に残ったできごとについて、どんな気分になったかをオノマトペで回答してもらいました（気分オノマトペ）。
- 小中学生、高校生/大人の両方で1位は「わくわく」、2位は「やったー」。ただし、小中学生の「わくわく」は21.3pt、「やったー」は21.1pt、高校生/大人より高い値です。
- 小中学生の3位は「うきうき」でポジティブなワードが続きます。高校生/大人の3位は「ドキドキ」でした。

Q.この一年間で最も心に残っているできごとで、あなたはどんな気分になりましたか。（3つまで）

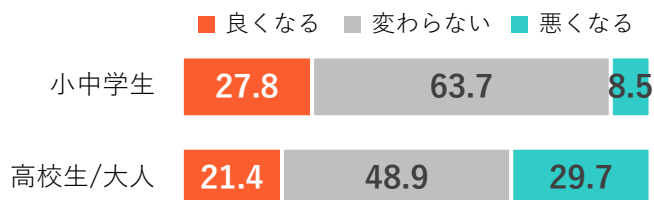


4. 2025年は2024年と比較して「変わらない」と考えている小中学生が6割以上。

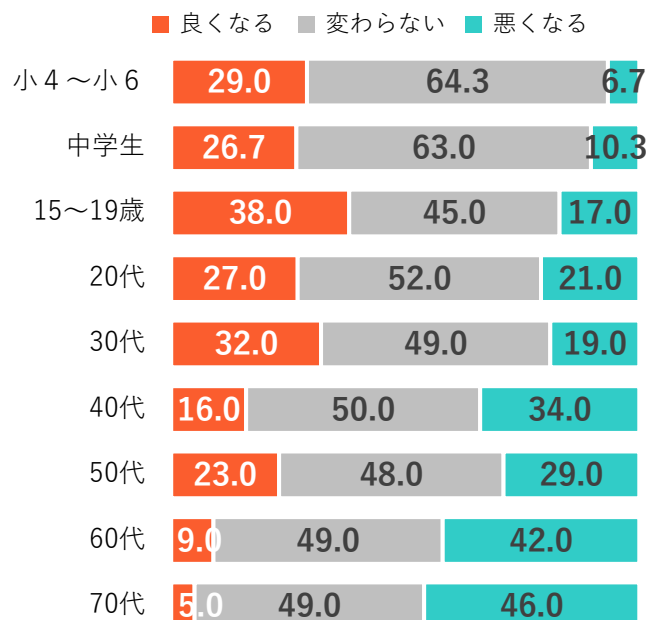
- 2025年の世の中は、2024年と比べてどうなると思うかたずねたところ、「変わらない」と回答した小中学生は6割以上。「悪くなる」と回答した小中学生は8.5%で、高校生/大人よりも21.2pt低い値でした。
- 小中×男女別では、「良くなる」と答えた小学生女子は3割で、4層中最も高い値。中学生男子では「悪くなる」と回答した人が1割を超えました。
- 小中別・年代別で、「良くなる」と回答した人は、15～19歳が最も多く38.0%。次いで30代の32.0%。小4～小6の29.0%よりも高い値でした。

Q. 来年2025年の世の中は、今年とくらべてどうなると思いますか。

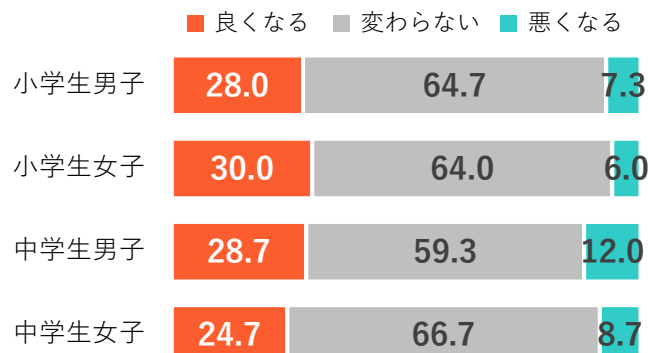
■全体



■小中別・年代別



■小中×男女別



5. 2025年の世の中に対する小中学生の期待、願望は「平和で戦争のない世界」が最多。

- ・ 来年2025年の目標や願望を自由回答できいたところ、小中学生の〈自分自身や身の回りのこと〉では、「勉強をがんばりたい」「テストの点数アップ」といった勉強に関することが最も多く挙がりました。続いては「入試合格・進学」に関しての希望や決意で、中2～中3生が中心ですが、小学生でも散見されました。
- ・ 小中学生の〈社会や世の中のこと〉では、「平和になってほしい」「戦争がなくなってもほしい」という回答が突出して多くありました。また、「物価が下がってほしい」という回答の中には、お菓子やゲームが安くなってほしいという声もありました。
- ・ 高校生/大人の〈自分自身や身の回りのこと〉では「自分自身や家族の健康」、〈社会や世の中のこと〉では「物価安定・インフレ抑制」と、より生活に密着した切実な回答がみられました。

Q. 来年2025年にやりたいことや目標、こうなってほしいという期待や願望はありますか。以下の2つのことについて、どのようなことでも構いませんので教えてください。 1.自分自身や身の回りのこと 2.社会や世の中のこと

小中学生（600人）上位5位

自分自身や身の回りのこと	回答数	社会や世の中のこと	回答数
勉強・学校生活関連 「勉強をがんばる」「テストの点数アップ」など	171	平和で戦争のない世界 「世界が平和になるように」「戦争がなくなってもほしい」など	146
入試合格・進学 「高校受験合格」「第一志望に受かりたい」など	84	物価安定・インフレ抑制 「もう値上げしないでほしい」「ゲームがもっと安くなってほしい」など	44
スポーツ（ダンス含む）関連 「バスケがうまくなりたい」「縄跳びをかんばる」など	71	自然災害・地球温暖化抑制・環境保全 「地震がおきないように」「異常気象がすすまないでほしい」など	34
部活関連 「部活を楽しみたい」「部活でレギュラーになること」など	29	穏やかで暮らしやすい、明るく安心な生活 「明るいニュースが増える」「いっぱい楽しいこと嬉しいことが増えてほしい」など	31
友人関連 「友だちを増やす」「友だちと仲良く」など	27	景気や経済の回復 「景気がよくなってほしい」「経済がまわるように」など	29
特になし・わからない	62	特になし・わからない	193

高校生/大人（700人）上位5位

自分自身や身の回りのこと	回答数	社会や世の中のこと	回答数
自分自身や家族の健康 「健康で生活できること」「家族の健康を守る」など	91	物価安定・インフレ抑制 「物価が安定する」「価格高騰からの脱出」など	87
収入・貯蓄・運用関連 「NISAで投資をしたい」「仕事を頑張って給料を上げたい」など	63	平和で戦争のない世界 「ウクライナ、ガザ地区などの戦争が終結してほしい」「穏やかな平和を願う」など	81
旅行・遊興関連 「飛行機に乗って旅行に行きたい」「1週間以上、一人旅したい」など	59	景気や経済の回復 「日本経済がもっとよくなってほしい」「景気が良くなった実感ができる社会」など	75
仕事・アルバイト関連 「今後の人生、自分のキャリアプランを考えたい」「リスクリング」など	47	政治関連 「子育て政策がよくなる」「政治家がしっかりしてもらいたい」など	51
精神的な目標や欲求 「幸せになる」「前向きな考えに」など	43	穏やかで暮らしやすい、明るく安心な生活 「安定した世の中になってほしい」「未来に不安がない世の中にしてほしい」など	47
特になし・わからない	119	特になし・わからない	180

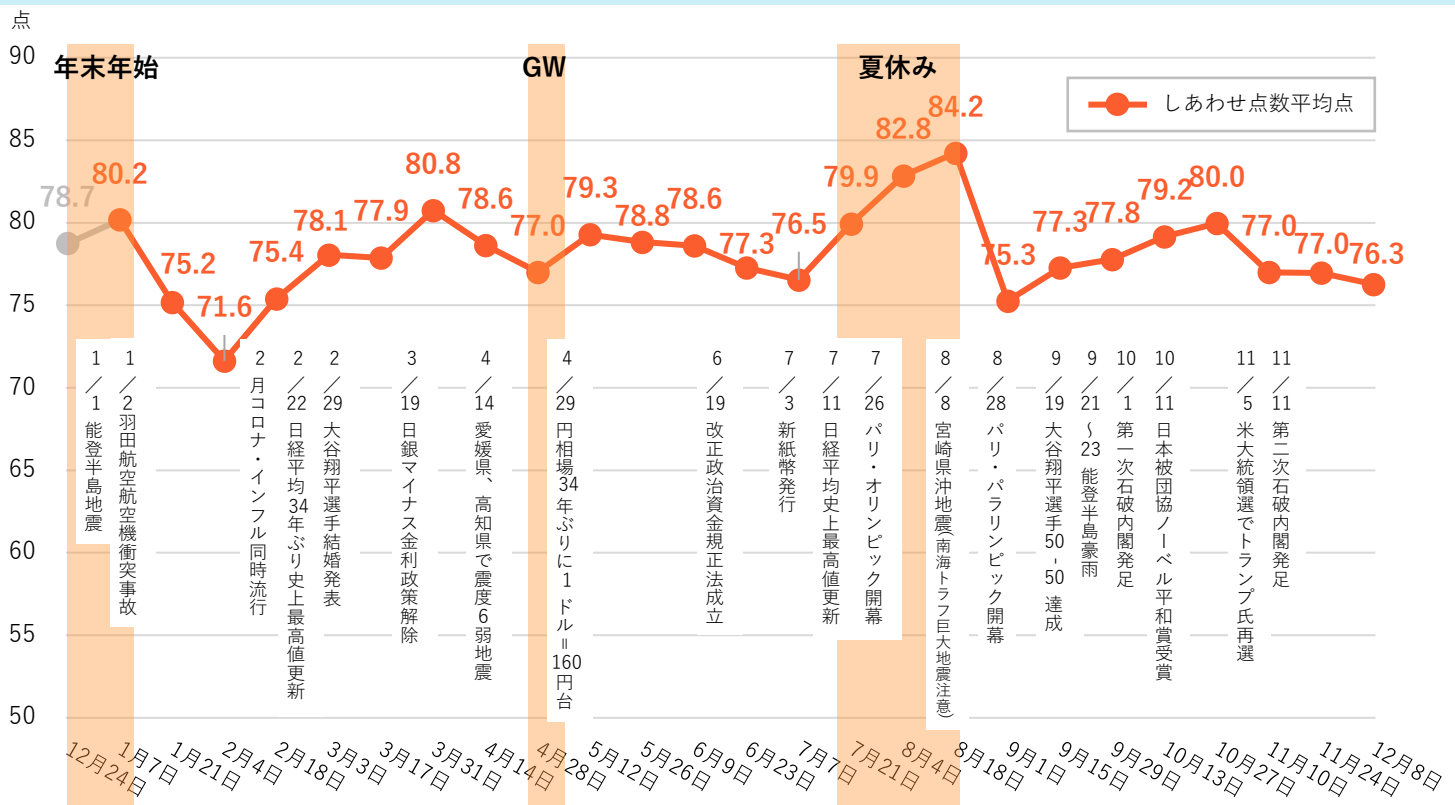
【隔週調査「いまの気分調査」より】 2024年のしあわせ点数推移×世の中の主なできごと

- 博報堂教育財団こども研究所では、小4～中3生300名を対象に「前週の心に残ったできごと」や「しあわせ点数とその理由」などを聴取する「いまの気分調査」を隔週で実施しています。
- ここでは、2024年1月～12月8日までのしあわせ点数平均点の推移と主な世の中のできごとをまとめました。
- トピックス調査「2024年の気分調査」では、小4～中3生のしあわせ点数の平均点は81.5点でしたが、「いまの気分調査」での年間※の平均点は78.1点で、トピックス調査の結果よりも3.4pt低い値でした。1年間の振り返りでは、隔週調査で短期的に感じていた不満や不安の記憶が薄まるのかもしれない。
- 今年※のしあわせ点数で最も平均点が高かったのは、夏休み中の8月18日調査の84.2点で、これは2017年10月にしあわせ点数を聴取し始めて以来、最高点となりました。
- 今年※、しあわせ点数が最も低かったのは、2月4日調査の71.6点でした。冬休み明けの1月中旬～2月にかけての平均点は例年低い傾向にありますが、今年は自分や周囲の人がコロナやインフルエンザに感染したという声が多くありました。
- 2017年10月から最新のしあわせ点数の推移を始めとする「いまの気分調査」の結果は、こども研究所のサイトからご覧いただけます。 (<https://kodomoken.hakuhodofoundation.or.jp/>)

※2024年1月7日～12月8日の「いまの気分調査」の結果

Q. 前週一週間であなたは自分のことをどれくらい「しあわせ」だと感じましたか。「すごくしあわせ」を100点、「まったくしあわせではない」を0点としたときに、100点まん点で教えてください

■ 全体（小4～中3）



「いまの気分調査」調査概要

調査エリア	全国
調査対象	小4～中3男女 300人
調査時期	隔週日曜日
調査方法	インターネット調査
調査機関	QO株式会社

	(人)		
	男子	女子	計
小学4年生	25	25	50
小学5年生	25	25	50
小学6年生	25	25	50
中学1年生	25	25	50
中学2年生	25	25	50
中学3年生	25	25	50
合計	150	150	300

子どもの回答にあたっては、保護者の同意のもとで行っております。

「2024年の気分調査」調査概要

- ◆調査手法 : インターネット調査
- ◆調査エリア : 全国
- ◆調査対象者 : 小学4年生～中学3年生男女、15～79歳男女

小4～中3 (人)				15～79歳 (人)			
学年	性別		計	年代	男性	女性	計
	男子	女子					
小学4年生	50	50	100	15～19歳	50	50	100
小学5年生	50	50	100	20代	50	50	100
小学6年生	50	50	100	30代	50	50	100
中学1年生	50	50	100	40代	50	50	100
中学2年生	50	50	100	50代	50	50	100
中学3年生	50	50	100	60代	50	50	100
				70代	50	50	100
合計	300	300	600	合計	350	350	700

- ◆調査実施日 : 2024年11月17日
- ◆企画・分析 : 公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所
- ◆実施・集計 : QO株式会社
- ◆調査パネル : 株式会社マクロミル

公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所について

【公益財団法人 博報堂教育財団】

博報堂教育財団は、児童に対する国語教育と視覚・聴覚障がい者に対する教育を助成し、あわせてその活動に関する調査研究を行うことで、健全な人間形成に寄与することを目的に、1970年に財団法人博報児童教育振興会として誕生いたしました。その後、2011年に公益認定を受け、2020年に現在の名称に変更しました。

設立から50年以上を経た今日では、「子ども・ことば・教育」を活動領域ととらえ、設立以来の事業である、児童教育の実践者を顕彰する「博報賞」をはじめ「児童教育実践についての研究助成」「教職育成奨学金」「海外の子どもたちとの日本語交流や日本語教育支援」「社会啓発事業」「調査研究事業」など、さまざまな活動を行っています。

【公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所】

博報堂教育財団こども研究所は、弊財団の調査研究事業の一環で、2017年に設立されました。独自の調査や実験的な取り組みによって子どもの姿をありのままに捉え、子どもたちの可能性について新たな発見をし、それを社会と共有することで、子どもに対する見方やイメージの枠を広げていくことを目指しています。

こども研究所ホームページでは、調査研究の結果を広く公開しています。

<https://kodomoken.hakuhodofoundation.or.jp/>

本件に関するお問い合わせ

- 公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所 島津・福嶋・田口・亀田
<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/contact/> (財団お問い合わせページ)
- 「2024年の気分調査」詳細レポート
<https://kodomoken.hakuhodofoundation.or.jp/> (こども研究所ホームページ)